

姨母捨山

今は昔、信濃の国更科といふ所に住む者ありけり。年老いたりける姨母を家に据ゑて、親のごとくして養ひて、年ごろ相添ひて過ぐしけるに、その心にこの姨母いと厭はしく覚えて、これが姑のごとくにて老いかがりてゐたるを、きはめて憎く思ひければ、常に夫にこの姨母の心のさがなく悪しき由を言ひ聞かせければ、夫、「むつかしきことかな。」と言ひて、この姨母のために心にあらで、おろかなることども多くなりもて行きけるに、この姨母いといたく老いて、腰は二重にてゐたり。

嫁はいよいよこれを厭ひて、「今までこれが死なぬことよ。」と思ひて、夫に、「この姨母の心のきはめて憎きに、深き山に率て行き捨てよ。」と言ひけれども、夫いとほしがりて捨てざりけるを、妻あながちに責め言ひければ、夫、責められわびて、捨てむと思ふ心付きて、八月十五夜の月のいと明かりける夜、姨母に、「いざたまへ、姫ども。寺にきはめて貴きことする、見せ奉らむ。」と言ひければ、姨母、「いとよきことかな。まうでむ。」と言ひければ、男かき負ひて、高き山の麓に住みければ、その山にはるばると峰に登り立ちて、姨母下り得べくもあらぬほどになりて、うち据ゑて、男逃げて帰りぬ。姨母、「をいをい。」と叫べど、男、答へもせで逃げて家に帰りぬ。

さて家にて思ふに、妻に責められてかく山に捨てつれども、年ごろ親のごとく養ひて相添ひてありつるに、これを捨つるがいとかなしく覚えけるに、この山の上より月のいと明かくさし出でたりければ、夜もすがら寝られず、恋しくかなしく覚えて、独り言にかくなむ言ひける、

わが心慰めかねつ更科や姨母捨山に照る月を見て

と言ひて、またその山の峰に行きて、姨母を迎へ率て来たりける。さてものごとくぞ養ひける。

されば、今の妻の言はむことに付きて、よしなき心を起こすべからず。今もさることはありぬべし。

さてその山をば、それよりなむ、姨母捨山と言ひける。「慰めがたし」と言ふたとへには、旧事にこれを言ふにぞ。その前には冠山とぞ言ひける。冠の巾子に似たりけるとぞ、語り伝へたるとや。

【口語訳】

今ではもう昔の話だが、信濃の国更科という所に住む者があつた。

年老いた姨母を家にいさせて、(その姨母を)親のようにして面倒をみながら、長い年月ともに暮らしていたところ、(嫁は)その心の中でこの姨母をひどくわずらわしく感じて、これが夫の母親であるかのようにして年を取って腰が曲がっているので、非常に気にくわれないと思つたので、常々夫にこの姨母の心が意地悪く不快だと言ひ聞かせたので、夫は、「うつつとうしいことだなあ。」

と言つて、この姨母に対して心ならずも、粗略な扱いがしだいに多くなつていったところ、この姨母はたいそう激しく老いて、腰は二つ重ねたように曲がつてしまつていた。

嫁はいよいよこれをわずらわしく感じて、

「今までこれが死なないとはなんということよ。」

と思つて、夫に、

「この姨母の心がたいそう不快だから、深い山に連れていつて捨ててよ。」

と言つたけれども、夫は気の毒に思つて捨てずにいると、妻はしきりに責めたてて言うので、夫は、責められるのがわずらわしくなつて、捨てようという気になつて、八月十五夜の月がたいそう明るかつた夜、姨母に、

「さあいらっしゃい、おばあさんよ。寺でこの上なく貴いこと(法会)があるのを、見せに連れていつてあげますよ。」と言つたので、姨母は、

「それは本当にうれしいね。お参りしましょう。」

と言つたので、男は(姨母を)背に負つて、高い山の麓に住んでいたので、その山に登りはるばると高い峰をさして登つていつて、姨母が降りてこれられないほどの所まで来て、座らせて、男は逃げて帰つた。

姨母は、「おーい、おーい。」と叫んだが、男は、返事もしないで逃げて家に帰つた。

そして家に帰つて思うことには、妻に責めたてられてこうして山に捨ててはみたものの、長年親のように面倒をみてともに暮らしていたのに、それを捨ててしまったことがたいそう悲しいことだと思ひ続けていると、

この山の上から月があかあかとさし上つたので、一晚中眠れず、(姨母が)恋しくいとおしく思われて、独り言にこう詠んだ、

わが心……(姨母を捨ててきた更科の山の上に照る月を見ていると、姨母のことが思われて、自分の心はどうにも慰めようがないことだ。)

と詠んで、再び山の峰に行き、姨母を呼び寄せて連れて帰つた。

そうしてもどのように面倒をみた。

それゆえ、新しい妻の言うことにつき従つて、つまらぬ心を起こしてはいけない。

今でもそのようなことはあるだろう。

そのようにしてその山を、それから姨母捨山というようになった。

「慰めがたい」というたとえには、故事にこれをいうのである。

(この山は)以前には冠山といつていた。

冠の巾子に似ていたからであると、語り伝えているといふことだ。